

出生前検査・診断に関する 人文社会科学的研究の 文献レビュー

柘植あづみ

明治学院大学社会学部

柘植（つげ） あづみ 自己紹介

現職 明治学院大学社会学部社会学科教員（教授・現在は社会学部長）

略歴 埼玉大学大学院理学研究科生体制御専攻修士課程修了

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程単位取得満期退学 博士（学術）授与
北海道医療大学基礎教育部教員（文化人類学・医療人類学担当）を経て現職

専門 医療人類学、生命倫理学、ジェンダー論など。出生前診断、不妊治療、病気になることなどについてインタビュー調査を主に、医療と医療技術が社会にもたらす課題と、人が生きることについて考えている

主な著書・論文

『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』 2012 みすず書房

「生殖管理の戦後—優生保護法成立前の中絶と主体をめぐって」 坪井秀人編『戦後日本を読みかえる4 ジェンダーと生政治』 第3章 2019 臨川書店

「ささやかな欲望を支える選択と責任—卵子提供で子どもをもつ理由—」 『思想』 1141：27－49
2019 岩波書店

“Ethical and Social Implication of Current Prenatal Genetic Testing,” *Journal of Mammalian Ova Research*, 33(2): 109-113, 2016. DOI:10.1274/jmor.33.109

“Reconsidering ethical issues about “voluntary egg donors” in Hwang’s case in global context,” *New Genetics and Society*, 30(3):241-252, 2011. DOI:10.1080/14636778.2011.598053

出生前検査が人文社会科学
的な研究テーマになったとき

Barbara Katz Rothman

(バーバラ カッツ ロスマン、社会学)

Tentative Pregnancy: Prenatal Diagnosis and the Future of Motherhood, Viking Press, 1986.
New edition, 1991.

The Tentative Pregnancy: How Amniocentesis Changes the Experience of Motherhood,
The W.W. Norton & Co. 1993.
Paperback edition, Penguin Books, 1990.

アメリカにおいて比較的高い年齢（30歳以上）で出産をする女性に羊水検査が普及しはじめたころ、検査を受けた女性へのインタビュー調査で、**検査の結果が出る前の状態を”tentative pregnancy”（仮の妊娠）**と呼んだことから、出生前検査という医療技術が如何に女性の妊娠に対する認識を変化させたか、もし検査で胎児に何かあったらどうするのかの葛藤を描いた（たぶん）最初の著作。

Rayna Rapp

(レイナ・ラップ、文化人類学・医療人類学)

*Testing Women,
Testing the Fetus:
the Social Impact
of Amniocentesis
in America.*

Routledge, 1999

羊水検査を受ける女性へのインタビューだけではなく、遺伝カウンセラーとクライアントの関係の参与観察、染色体検査のラボでの参与観察、さらに障碍のある人の団体への調査等を通して、羊水検査とそれにかかわる知識、技術、言語、人間関係等がいかに作られているか、女性はその中で、いかに出生前検査を意思決定をしている（せざるをえない）のかなどを厚く記述した出生前検査をめぐる大著

出生前診断をめぐる議論の 「背景」にある思想

障害者の社会運動論の原点

横田弘

(青い芝の会)

『障害者殺しの思想』 1979、
増補新装版 2015

横塚晃一

(青い芝の会)

『母よ！ 殺すな』 1975、
増補版 1981、2007、
2010



1960年代後半から70年代前半の「不幸な子どもの生まれない対策」の啓発資料 7

調査研究ではないが、影響力のあった著作

立岩真也

(社会学)

『私的所有論』 勁草書
房 1997年

(文庫版 生活書院
2003年)

(主として身体の) 私的所有
と自己決定、自己と他者、能
力主義批判、優生思想批判、
障害者の社会運動の論理、女
性運動の論理について論じな
がら、出生前診断と選別中絶
について女性の「自己決定」
とされることへの批判等、欧
米思想を根底としてきた生命
倫理の議論に問題提起し、深
く掘り下げた大著

斎藤有紀子編著 『母体保護法とわたしたち』

1996年に優生保護法から母体保護法へと名称が変更された。

障害者に対する差別的な条項は削除されたが、母体保護法が保護し、実現をはかろうとしているのは何かという疑問から母体保護法を取り巻く「現実」、とくに女性をめぐる「現実」について、法学、哲学、社会学、フェミニズム、障害者運動の当事者など、様々な視点・立場から妊娠、出産、人工妊娠中絶、出生前診断、不妊などの問題を平易に語った論集。

出生前検査／診断についての 経験と意識調査

調査目的

- 1 女性の妊娠にかかわる医療技術は日々変化している。まず、現在（調査の数年前から調査時点まで）の妊娠経験を把握し、それによって妊娠経験がいかに変化するのか／変化しないのかを経時的に実施する質問紙調査によって考察する。
- 2 その医療技術として、出生前検査技術の進歩によって女性の妊娠経験はいかに変化するのか／変化しないのかを経時的に実施する質問紙調査によって考察する。
- 3 出生前検査を受ける／受けないの意思決定の要因は何か、その情報提供のあり方をいかに評価するのか、検査を受けた／受けなかったことを後からいかに評価するのか、マイナス評価の場合にいかなる医療や医療以外のシステム等が必要とされているのか等を考察する。

調査方法

1 アンケート調査

妊娠を経験した女性を対象に保育園と医療施設（産婦人科・助産院）でアンケートを配布 無記名・郵送回収 （2003, 2013）

10年を経て、同様の質問項目の調査を実施（配布先変更有）

2 インターネット調査（Web調査）

- ・ モニター調査にて、20歳~44歳の女性で妊娠の経験があり、①何らかの出生前検査を受けたと回答した人400名、②検査は受けていないが受けるか迷ったとした人1800名を対象としてWebでの回答（2015）

3 インタビュー調査

- ・ アンケート回答協力者がインタビュー協力依頼書を読んで同意する場合には返送してもらった （2003）
- ・ 出生前診断を受けた人へのインタビュー（少数）、検査対象となっている疾患の患者団体の代表等へのインタビュー、医療者インタビュー （2013）

回答数・回収率・有効回答数他

1 アンケート調査

2003調査 配布 900票（都内の保育園21ヶ所780、医療機関 4 ヲ所120）

回収数 382票（保育園324、医療機関58 ）回収率 42.4

うち無効回答 7 有効回答数 375票

（保育所と医療機関の回答では、妊娠年齢、現在の就業の有無、学歴について有意差があったが、出生前検査の受検状況については有意差は見られなかったため、一緒に集計した）

2013調査 配布 900票（首都圏の保育園14ヶ所 958、医療機関7ヶ所241）

回収数 保育園397（回収率41.4%）、医療機関163（回収率67.6%）

有効回答数 保育園378（有効回収率39.5%） 医療機関156票（有効回収率64.7%）（保育所と医療機関の回答は個別に集計した）

2 インターネット調査 2015

- 回収数 2378 ÷ 回答条件適格者 8766 = 回答率27.1%
- 有効回答数 2357 ÷ 回答条件適格者 8766 ÷ 有効回答率26.9%

2003年調査の結果から
『妊娠—あなたの妊娠
と出生前検査の経験を
おしえてください』
柘植あづみ・菅野摂
子・石黒真里著、2009
刊、洛北出版



調査方法

- 2003年に、都内の保育園21ヶ所にて780通、医療機関4ヵ所にて120通、計900通を配布した。
- 回収は、返信用封筒で各人に投函してもらった。382通（保育園324通、医療機関58通）の回答が得られ、回収率は42.4パーセントだった。
- 382通のうち7通を無効票とし、375通の有効票を集計し、分析した。
- 保育所と医療機関の回答では、妊娠年齢、現在の就業の有無、学歴について有意差があった。だが、出生前検査の受検状況については有意差は見られなかったため、一緒に集計した。

2003年調査 羊水検査を受けた理由、受けなかった理由(N=375)

受けた人	22名
受けなかった人	294名
無回答	18名
羊水検査を知らなかった人	41名

妊娠年齢と羊水検査を受けた／受けない

妊娠年齢	羊水検査		無回答	合計
	受けた	受けなかった		
15歳-19歳	0	1	0	1
20歳-24歳	1	11	1	13
25歳-29歳	2	63	3	68
30歳-34歳	6	157	12	175
35歳-39歳	7	59	1	67
40歳-45歳	6	3	1	10
合計	22	294	18	334

羊水検査を知らなかった人は41人

羊水検査を受けた経験

- 40歳、3度目の妊娠 困惑
- 生活を考えて中絶も考えたが、妊娠継続
- 医師は羊水検査について詳しく説明
- 夫と母と相談した。「大丈夫とは思うが、安心して子どもを産むために検査を受けよう」と決めた。
- 夫の両親には伝えなかった。
- 染色体異常が見つかりショック「そんなはずはない」と思った。
- 夫と相談し、悩んだ末に中絶した。
- 検査をして良かったと思うが、生命の選別に対するうしろめたい、申し訳ないという気持ちを抱いた。

羊水検査を受けなかった理由 1

- 羊水検査をすることで、もし障害の可能性がわかったら、その妊娠の中断を決断できるような状況に立ちたくなかった。それがこわかったというのが正直な気持ちです
- 亡くなった妹がダウン症だったので自分の年齢も若くないので心配だが、もしダウン症でも今はほとんど生きられるし芸術的な才能がある子も多いなど説明された。
- その子の生きる権利を私がうばっていいのかとも思った。…… 妹に相談した時に「もしその子がダウン症かもしれないという結果が出たとき、どうするの」と問われて我にかえったことを、昨日のことにように憶えている。

受けなかった理由 2

- 通院していた病院ではやっていなかったから。
- 医師にすすめられなかったし、受けたいとも思わなかった。
- 体調は良好だったし、羊水検査のリスクと費用を考慮しわざわざ受ける必要はないと思ったから。
- 必要があるかどうかわからなかったのも。
- 超音波検査で胎児に異常がなく、必要ないと考えた。
- リスクの多さとトリプルマーカの結果より。
- 年齢が若いから大丈夫かなと思って。
- 中絶を考えたりするのがいやだった。

アンケート調査2003結果のまとめ

- 医師から出生前検査について説明することが、検査を勧められていると受け取られることがある。
- 逆に、医師が説明しないことが検査の存在を知っている人には自分には検査は必要ないと受け取られることがある。
- 羊水検査などを受けない理由には、検査をすることに批判的な意見や、検査の危険性によるだけではなく、自分には障害児は生まれないという楽観的な希望、厳しい選択を迫られる状況を避けたいなども含まれる。

質問

妊娠についてあるいは生まれてくる子どもについて
不安になったことがありますか？

(n=714: 375名の妊娠回数714回)

- 不安になった 63.9% (456件)
- 不安になったことはない 30.4% (217件)
- 無回答 5.7% (41件)

自由記述欄の不安内容のキーワード

障害58件 健康46件 流産39件 五体満足33件

妊婦を取り巻く多様な不安

- どのように対処をしたのか？

- | | |
|------------------|------|
| 1. 妊娠出産に関する本を読んだ | 207件 |
| 2. 身近な人に相談した | 166件 |
| 3. 専門家に相談した | 163件 |

調査実施が2003年だったためインターネットの利用は少なかった。

妊婦はこのような状態で、さまざまな検査を受けるか受けないかの決定をしていく状況に置かれていく。

2003年 インタビュー調査

インタビュー調査の結果のポイント1

- 医療者とのコミュニケーションのまずさ
- 一番コミュニケーションがとれていたのは、胎児の性別について
- 医師の言葉をいかに受け止めるかは、妊婦の状況で違う
「そんなの受けてどうするの」の是非
- 超音波検査の頻度が少ないことの説明、胎児の性別を教えないことの説明、誰に出生前検査の情報を提供しているのかの説明の必要性

インタビュー調査の結果のポイント 2

- 夫または自分の母による励ましで検査を受けないという意思決定、その逆もあった
- 夫は「障害児が生まれるわけがない」という意識が妻より強い事例が多かった、その逆もあり
- 女性の職業継続のために妊娠継続を迷った事例では、周囲の理解を得るのが難しい。逆に、胎児に障害があることは妊娠を継続しない理由として認められやすい、と認識されている。

インタビュー調査の結果のポイント 3

- 海外の情報を持っている人が少なくない。母体血清マーカー検査や羊水検査を日本よりも頻繁に行っている国の状況を知っていると、日本の医師の姿勢に疑問をもったり、好感を抱いたりといろいろな反応があった。
- 情報は積極的に求めるが、与えられた情報に対しては受動的、自分に都合のよいように再解釈（良い場合も悪い場合もある）
- 医療に対する信頼

Lさんの場合（羊水検査を受検）

- 養護教諭で、すでに2人の子どもがいた。2人目の子どもが子宮内発育遅滞と言われて心配したことがあった。
- 予定した妊娠ではなく、夫は子どもが3人になると経済的に苦しくなると不安に感じていた。障害については心配していなかった。
- 3人目を中絶するなら、その理由が必要だと思った。
- 「異常」はなかったが、超音波画面で子宮の中に針が入ったのをみて、中絶するのは難しいと感じた。

インタビュー調査 Fさんの場合 (母体血清マーカー検査を受検)

- 3人目の妊娠だった。フルタイムで就労
- 子どもの友人でダウン症で心臓に疾患のある子を傍から見ていて、**上の2人に迷惑はかけられないと思い、**出生前検査について考えた。
- **羊水検査は流産の副作用があることから、母体血清マーカー検査を受けることにした。**検査については夫と一緒に調べて、理解を深めた。
- **羊水検査を受けようという覚悟は決まっていなかったと思う。**今でも解決できない問題。

出産後の準備のために受検する Vさんの場合（精密な超音波検査を受検）

- 療育施設の看護師、フルタイム。夫もコメディカル。
- 上の子どもに先天的な心疾患があり、生後すぐに見つかったため、早い時期に手術でき元気に育っている。
- 子どもに障害があるなら、早く知って療育の準備をしたり計画を立てたいと考えていた。
- 障害を理由に中絶するということは夫も自分も考えなかった。

出生前検査の意思決定要因 1

- 「上の子に迷惑がかかる」「親が大変」など、障害者の生きる価値というより、**家族の負担**に言及されていた。
- **妊娠継続の意思と、障害を持った子どもが生まれる可能性**（主観的なものも含める）との両方を考慮して検査を受けるかどうかが決められていた。
- 障害を持った子どもが生まれる可能性を考慮しながら妊娠を継続するには、**夫または他の家族の理解と協力の存在を確信**できることが必要である。

出生前検査の意思決定要因 2

- 医師とのやりとりにおいて、羊水検査について質問したら、医師から「そんなの受けてどうするの」のような対応をされた2人（インタビュー）。一人は他の病院で羊水検査を受け、もう一人は検査を受けなかった。受けなかった人は自分でじっくり考えて受けなかったとした。夫は受けない方に賛成。
- 夫または自分の母による励ましで検査を受けないという意思決定、その逆もあった。
- 夫は「障害児が生まれるわけがない」という意識が妻より強い事例が多かった、その逆もあり（妻から見た夫婦間の意識の差）
- 女性の職業継続のために妊娠継続を迷った事例では、周囲の理解を得るのが難しい。逆に、胎児に障害があることは妊娠を継続しない理由として「世間に」認められやすい、と認識されている。

妊娠と出生前検査の経験についての2013年アンケート調査から見えること

- 柘植あづみ（妊娠研究会代表、明治学院大学）
- 妊娠研究会：石黒眞里、井原千琴、白井千晶、菅野摂子、田中慶子、二階堂祐子、渡部麻衣子

(<http://www.meijigakuin.ac.jp/~atsuge/pre/2015.html>)

回答数・回収率・有効回答数他

1 アンケート調査

2003調査 配布 900票（都内の保育園21ヶ所780、医療機関 4 ヲ所120）

回収数 382票（保育園324、医療機関58）回収率 42.4

うち無効回答 7 有効回答数 375票

（保育所と医療機関の回答では、妊娠年齢、現在の就業の有無、学歴について有意差があったが、出生前検査の受検状況については有意差は見られなかったため、一緒に集計した）

2013調査 配布 900票（首都圏の保育園14ヶ所 958、医療機関7ヶ所241）

回収数 保育園397（回収率41.4%）、医療機関163（回収率67.6%）

有効回答数 保育園378（有効回収率39.5%） 医療機関156票（有効回収率64.7%）（保育所と医療機関の回答は個別に集計した）

2 インターネット調査 2015

- 回収数 2378 ÷ 回答条件適格者 8766 = 回答率27.1%
- 有効回答数 2357 ÷ 回答条件適格者 8766 ÷ 有効回答率26.9%

各検査の受検状況 保育園調査 n=346

受検した人数		
NT検査	31	} → NTと羊水検査 6 } } } → 母体血清マーカーと羊水検査 6
母体血清マーカー	35	
羊水検査	24	
絨毛検査	1	
着床前検査	1	
新型検査	1	
その他	3	

NT検査を受けた理由の自由記述 (保育園調査 抜粋)

- いつもの妊娠の（超音波）検査の時に医者さんが首の厚みも問題ないね、と普通に言っていた。こちら（私）には首の厚み等の知識はなかった気がする。
- 医師からの説明はなかったが、調べて知っていたので、超音波後に、医師に（NT検査について）たずねた。
- ダウン症の疑いがあるので羊水検査をすすめられた。
- （NT検査が知らないうちになされ）急に経過観察と言われたり、子供がダウン症かもしれないと言われ不安になった。

2013年調査

羊水検査を受けた理由、受けなかった理由 まとめ

◆ 受けた理由

- 年齢的にリスクが大きく不安だったから
- NTの結果、医師にすすめられた
- 家族で備えるには時間が必要だと考えて

◆ 受けなかった理由

- 医師から説明もなく、また自身も必要と思わなかったから
- 万が一流産するのが恐かったため
- 結果によって産まないという選択はするつもりがなかったの
で)
- クアトロテストで陰性だったため
- 検査自体がリスクだと思ったし、検査の結果を知って中絶する
か迷ってしまうのが嫌だった

2013年調査の結果のポイント

医師が検査について説明すること、説明しないことを、妊婦がいかに受け取るか

- 医師が検査について説明する
 - 自分は検査を受ける必要がある
 - 自分は検査を受けるか選択する必要がある
- 医師が検査について説明しない
 - 自分は検査を受ける必要がない

検査についての説明がないことについて妊婦の受け止めては、「説明して欲しかった」から「知らないままで良かった」まで、多様であった。

医師が説明をしない場合に、検査を受けるか受けないか決めるのは医師だと思い込んでいる妊婦が少なからずいた。

← 通常の医療の検査は医師が要不要を決めることが多い。

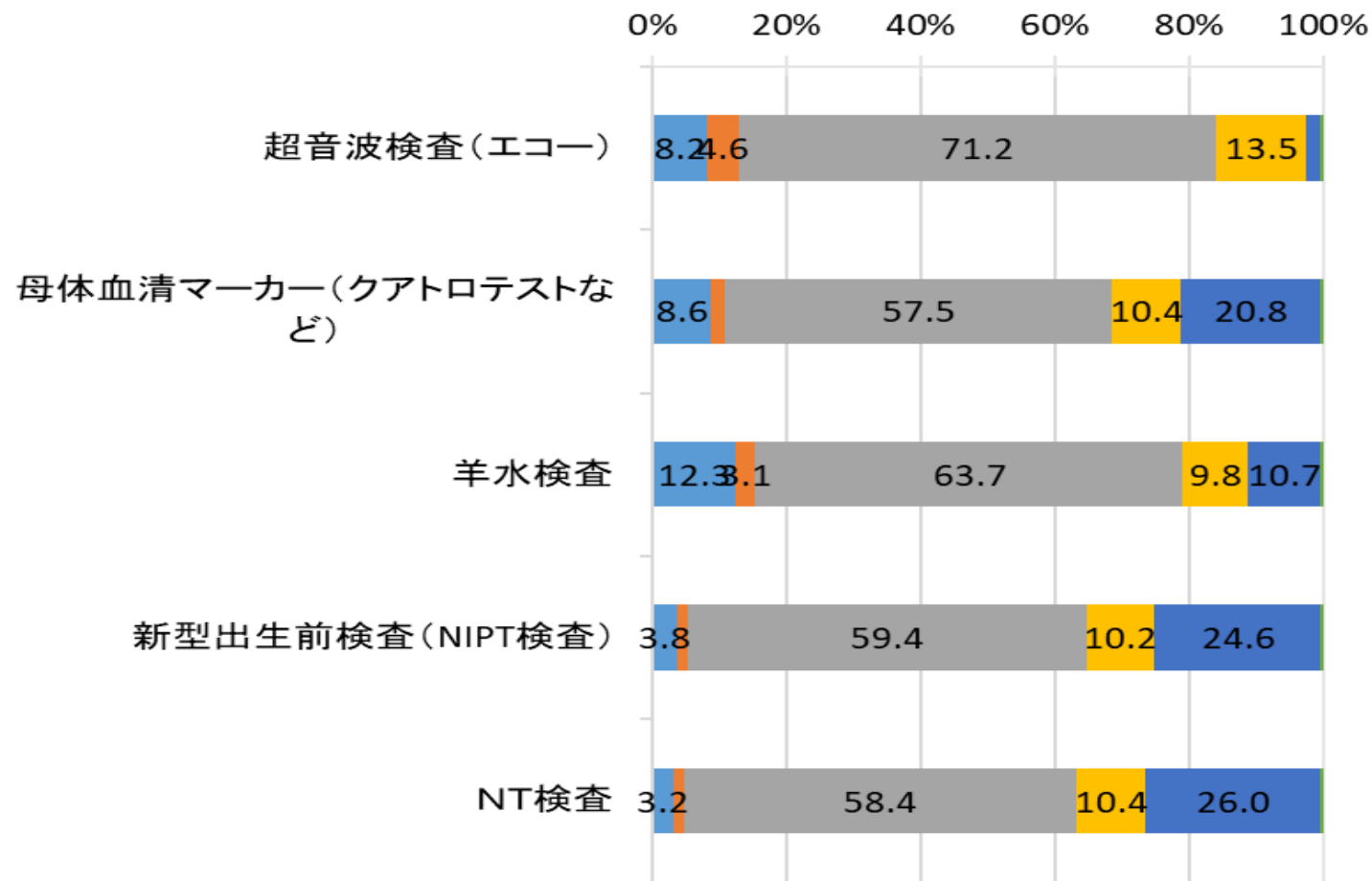
インターネット調査 2015

柘植あづみ（妊娠研究会代表）

妊娠研究会：石黒眞里、井原千琴、白井千晶、菅野摂子、田中慶子、二階堂祐子

(<http://www.meijigakuin.ac.jp/~atsuge/pre/2015.html>)

各種出生前検査の 医師の説明割合 n=2221



- 検査について説明を受け、受けるか尋ねられた
- 特に説明はないが検査を受けるか尋ねられた
- 受けるかどうか尋ねられていない
- 覚えていない
- この検査を聞いたことがない・知らない
- 答えたくない

◇2-5-1 誰が羊水検査を希望したか

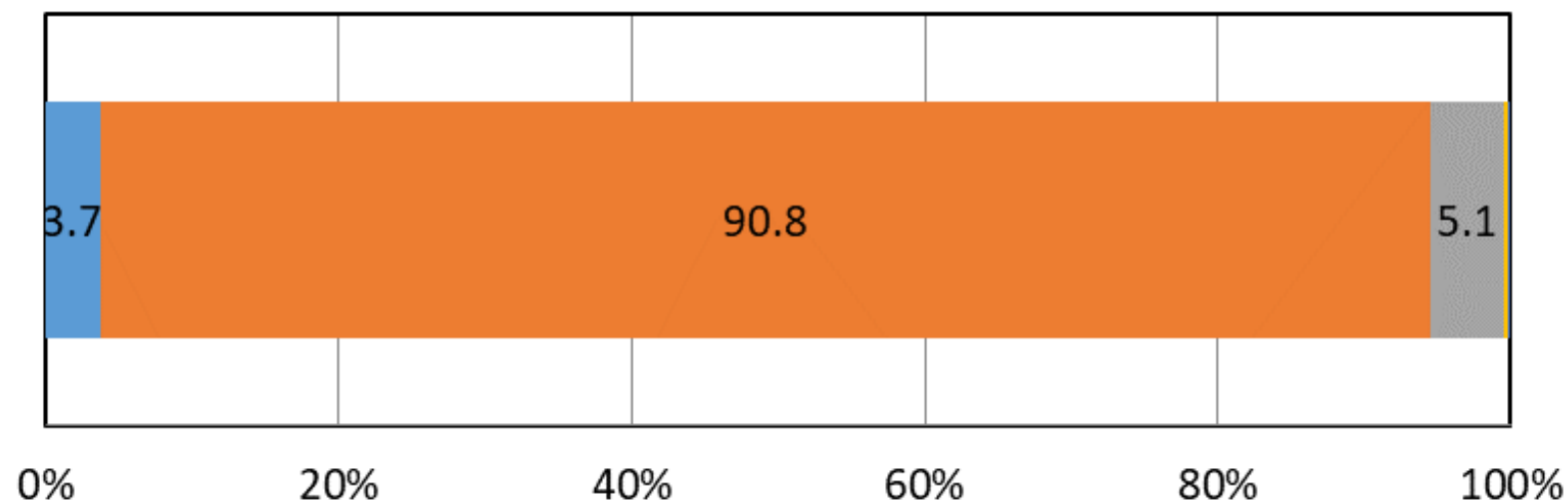
「一番最近の妊娠時に、羊水検査についてあなたの状況にあてはまるものをすべてお選びください」という質問に、「自分で検査を受けることを希望した」、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」、「医療者から、この検査の勧めがあった」、「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」、「（自分の希望を考える間もなく）医療者が検査をすると決めた」、「そういう検査があることを知らなかった」、「覚えていない・わからない」、「答えたくない」で回答してもらった。「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」は 1858 (83.7%)、「そういう検査があることを知らなかった」は 129 (5.8%)、「自分で検査を受けることを希望した」は 111 (5.0%)、「医療者から、この検査の勧めがあった」は 97 (4.4%)、「夫や家族が、検査を受けるよう希望した」は 51 (2.3%)、「（自分の希望を考える間もなく）医療者が検査をすると決めた」は 13 (0.6%)、「覚えていない・わからない」は 40 (1.8%)、「答えたくない」は 6 (0.3%) だった。「自分で検査を受けることを希望しなかった（断った）」が約 8 割と大多数だった。
(n = 2221)

◇2-5-2 羊水検査を受けたか

「一番最近の妊娠時に、あなたは羊水検査を受けましたか」という質問に、「検査を受けた」「検査を受けなかった」「他の医学的検査から受ける必要はなかった」「検査を受けたかわからない（自覚がない）」「覚えていない」で回答してもらった。「検査を受けなかった」は2016（90.8%）で最も多かった。「他の医学的検査から受ける必要はなかった」が114（5.1%）、「検査を受けた」が82（3.7%）、「検査を受けたかわからない（自覚がない）」が6（0.3%）、「覚えていない」が3（0.1%）だった。羊水検査を受けたと回答した人の割合は、2013年調査の結果（保育園調査6.9% 医療機関調査2.8%）と同程度だった。（n = 2221）

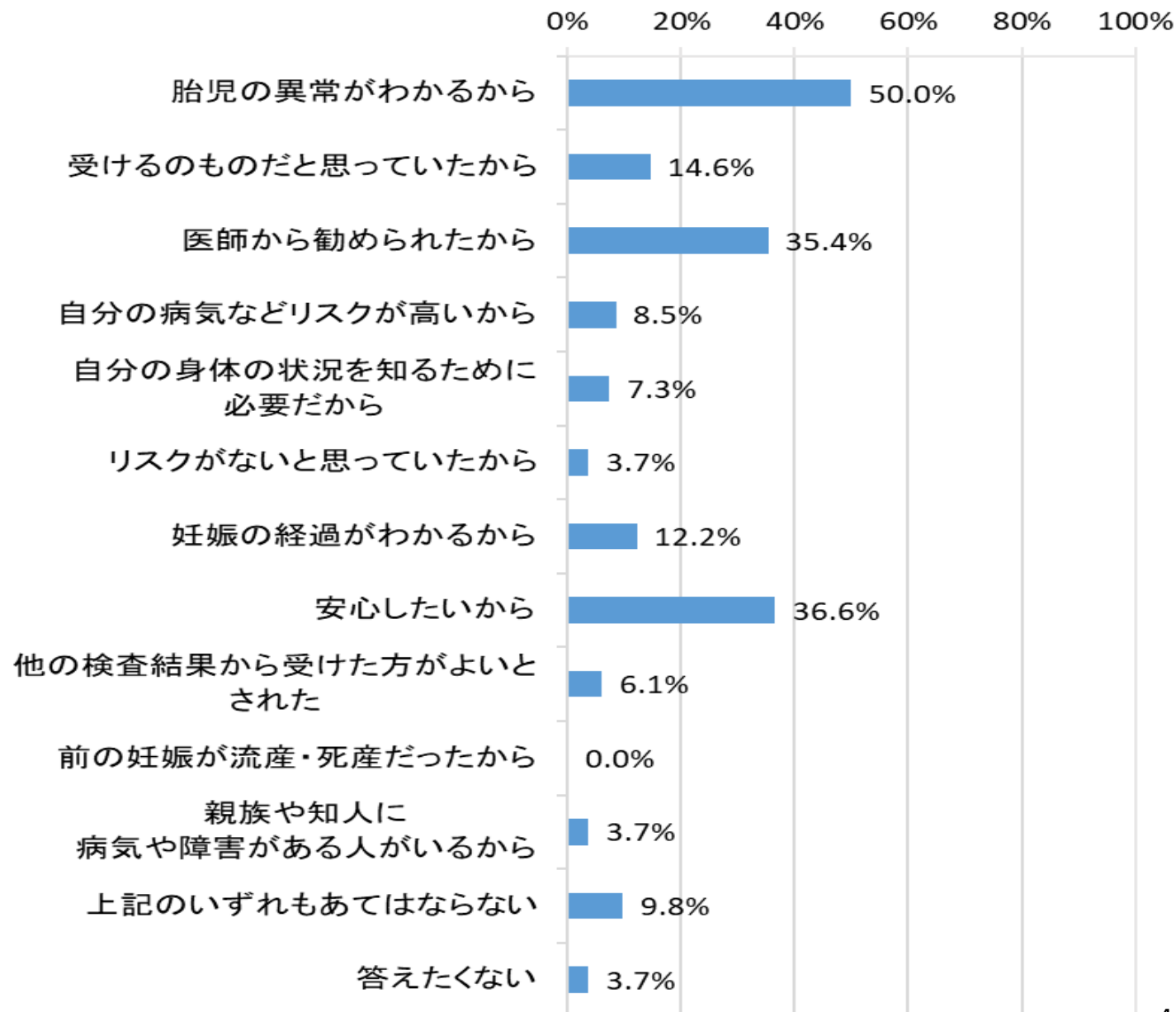
2015年 インターネット調査 羊水検査の受検について

n = 2221

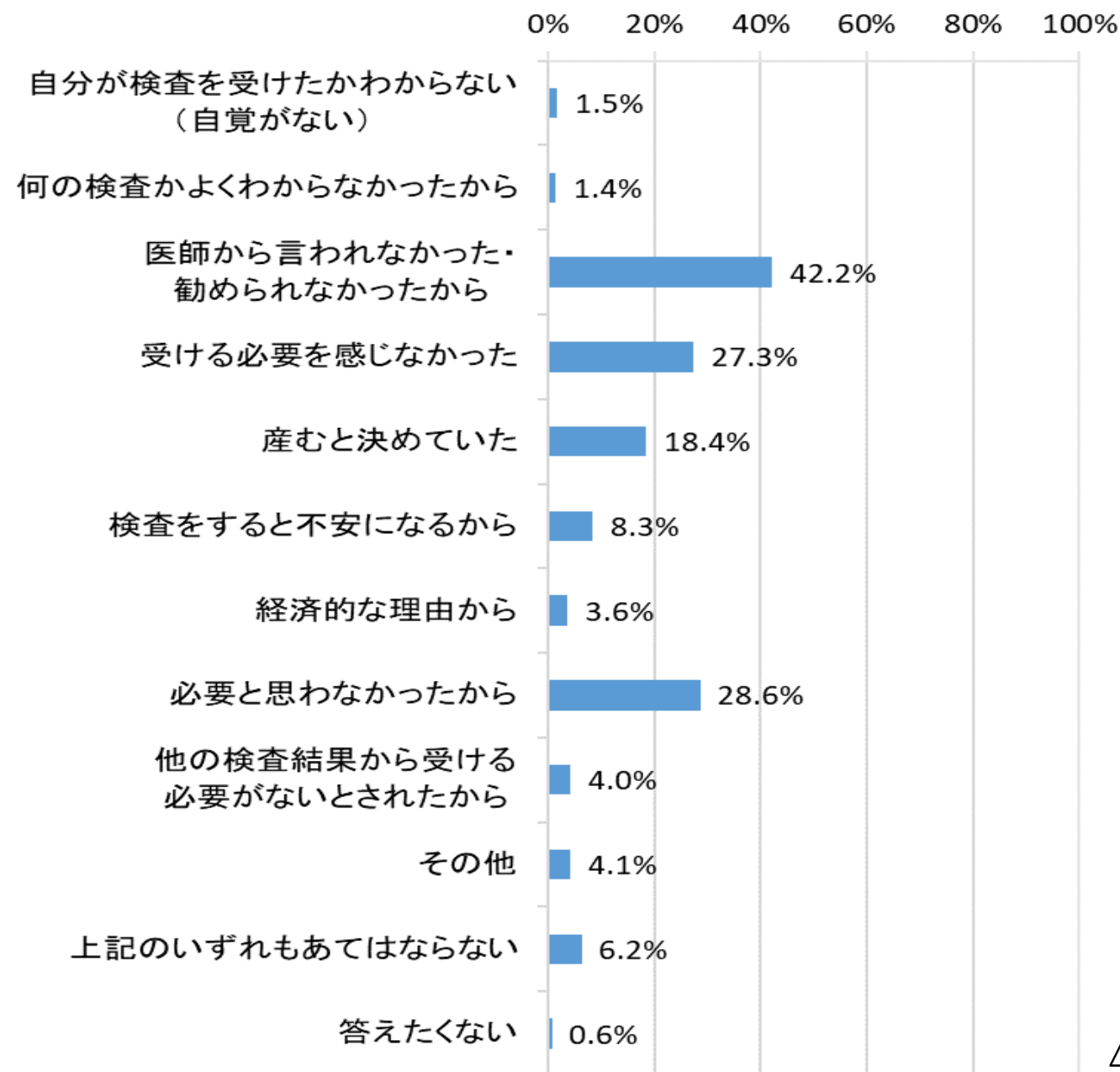


- 検査を受けた
- 検査を受けなかった
- 他の医学的検査から受ける必要はなかった
- 検査を受けたかわからない(自覚がない)
- 覚えていない

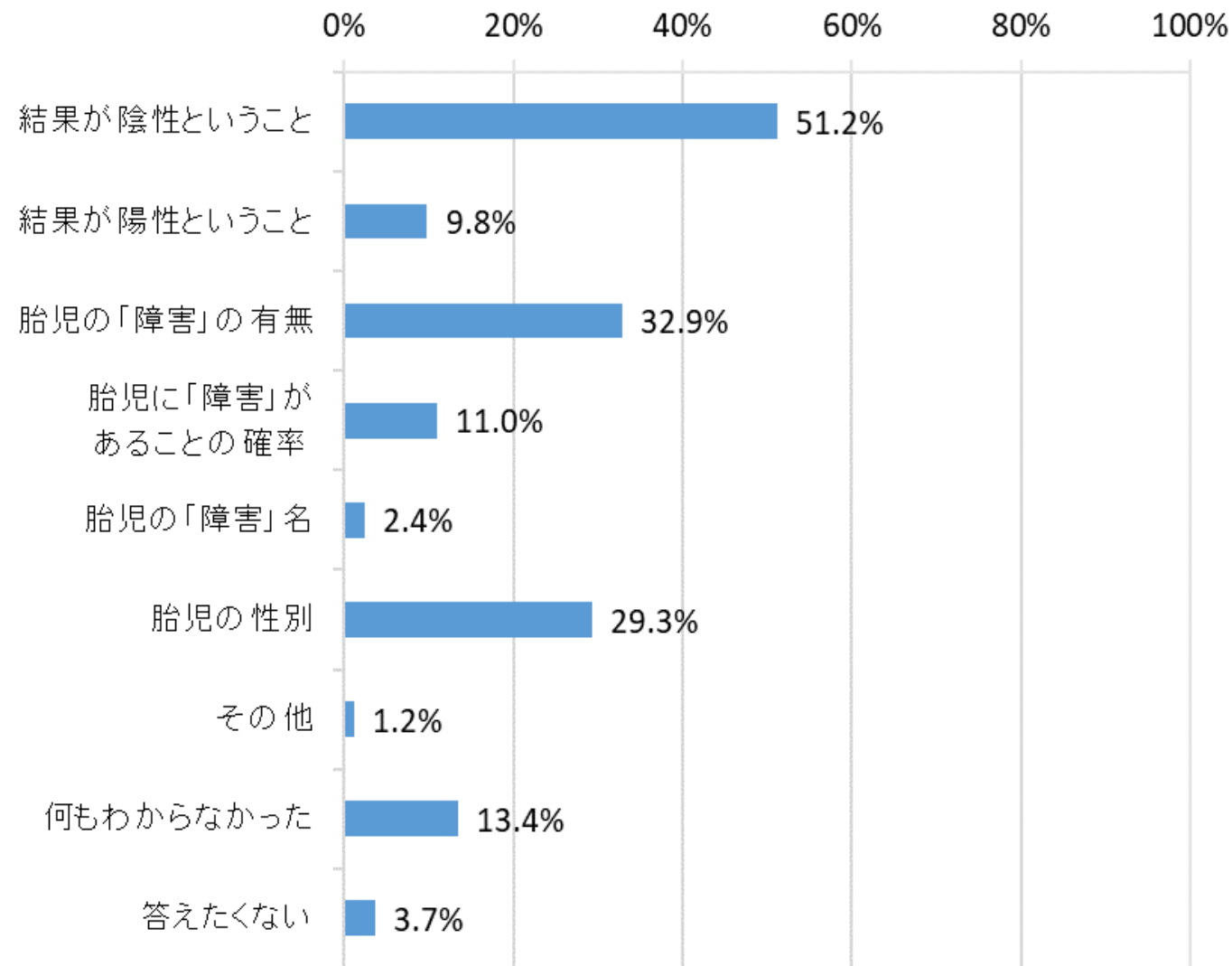
羊水検査を受けた理由 n=82



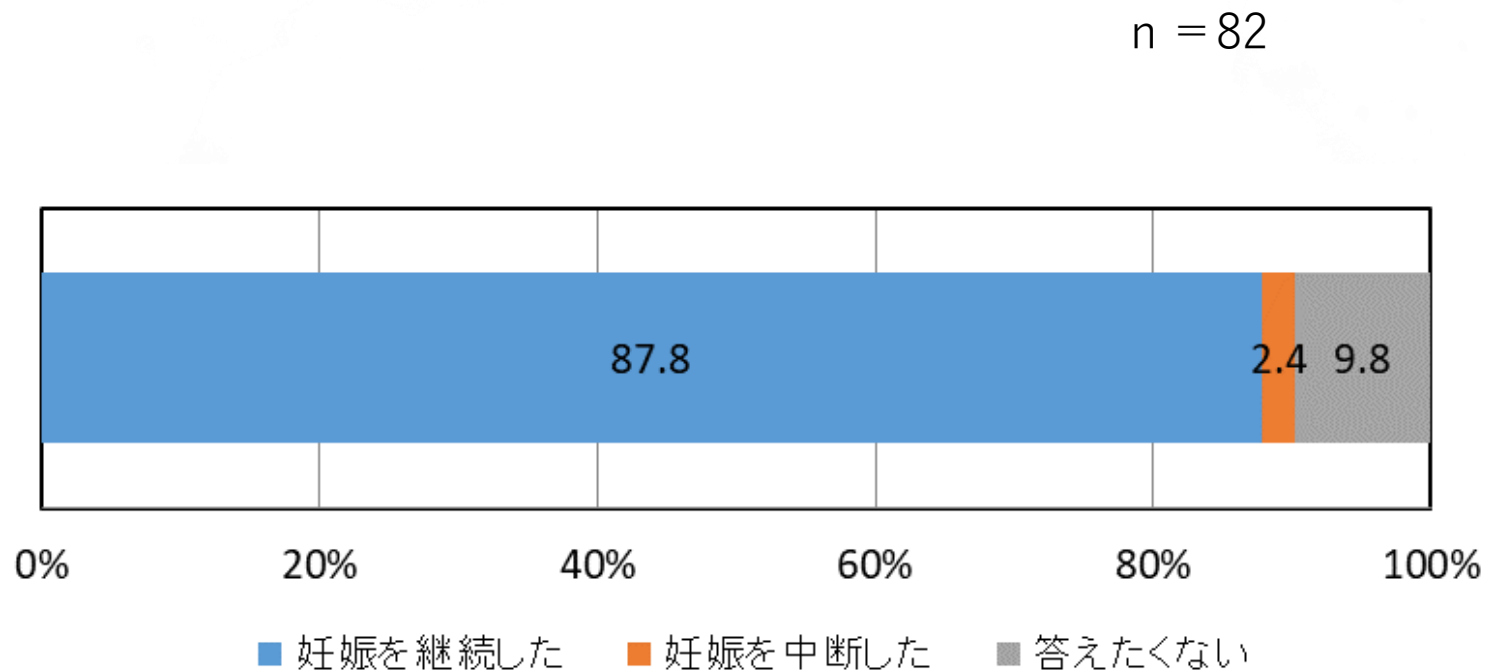
羊水検査を受けなかった理由 n=2016



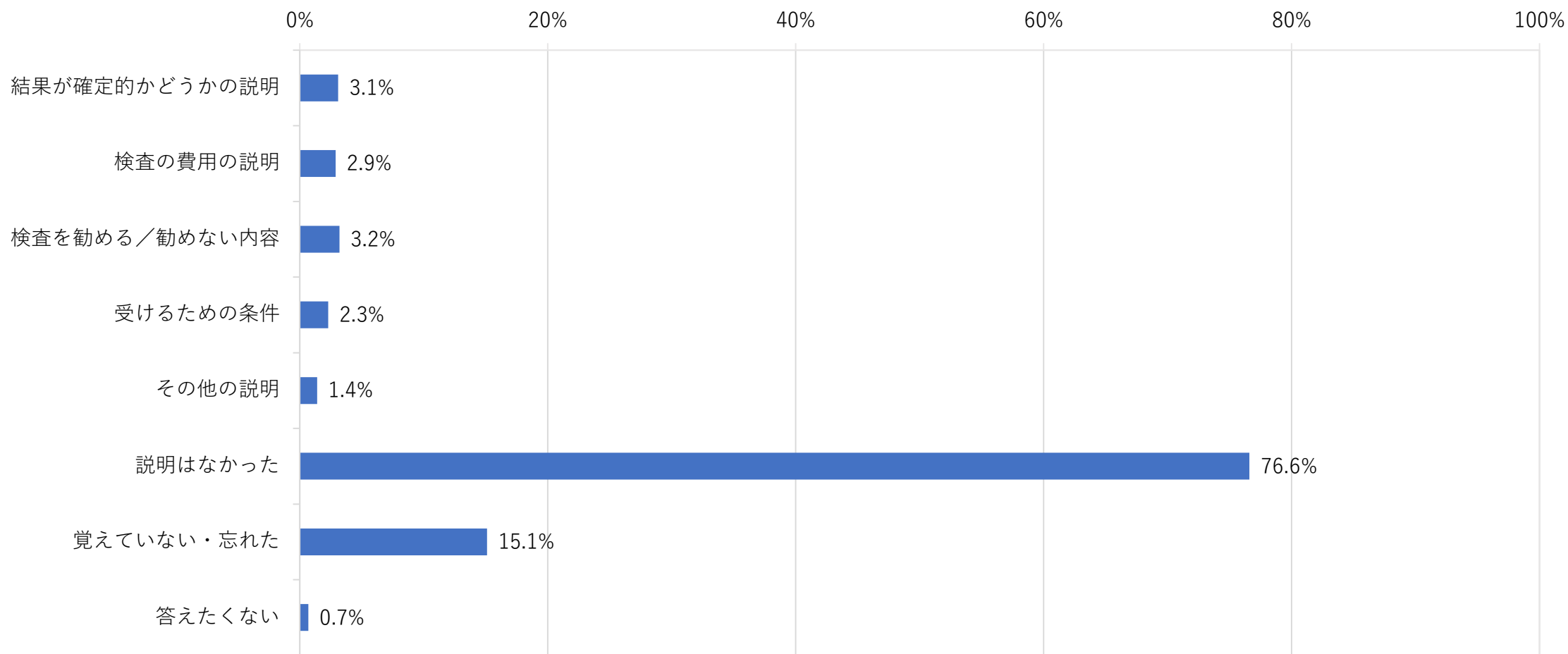
羊水検査によって何がわかりましたか n=82



羊水検査を受けた後の対応 n=82

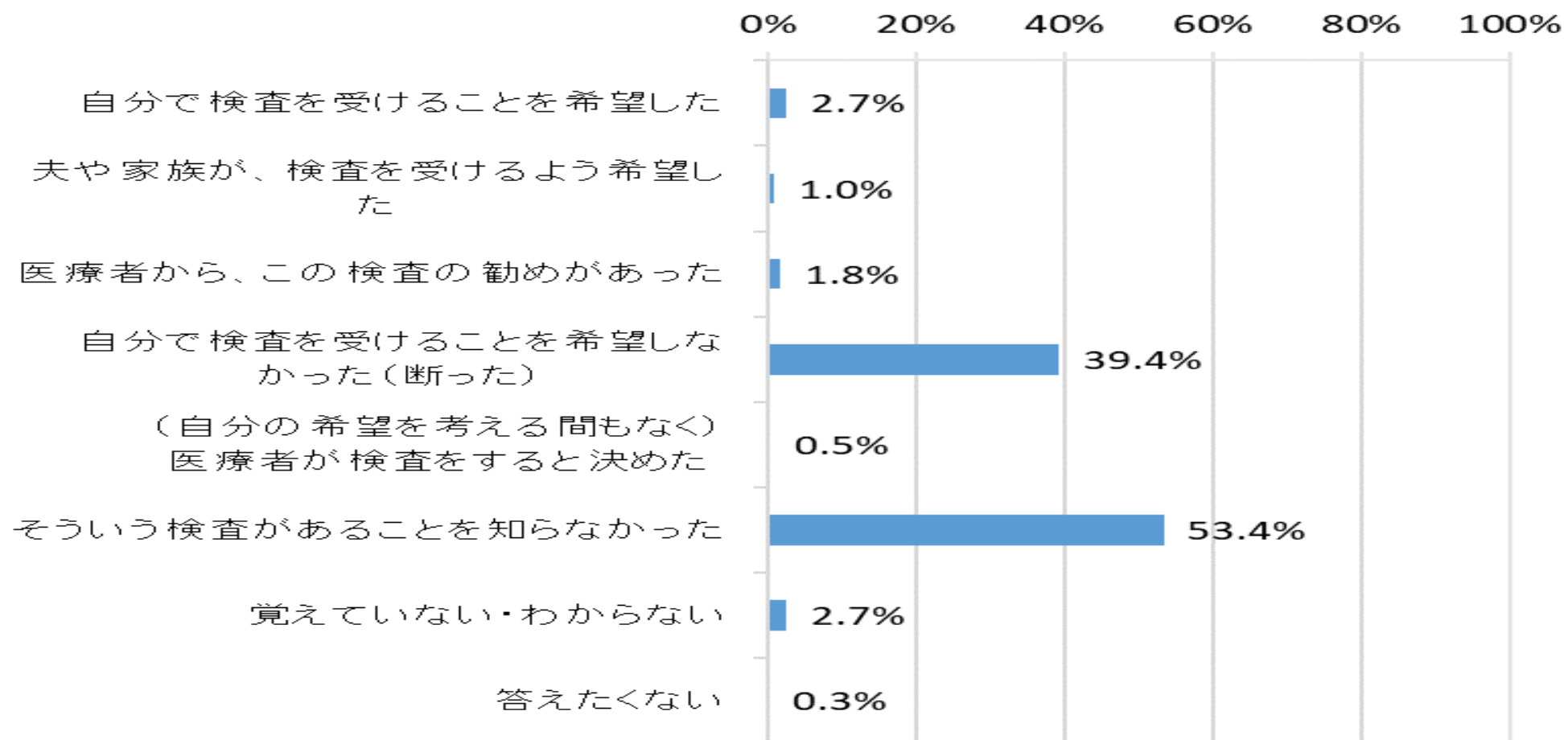


2015年インターネット調査 NIPTについての医療者からの説明内容

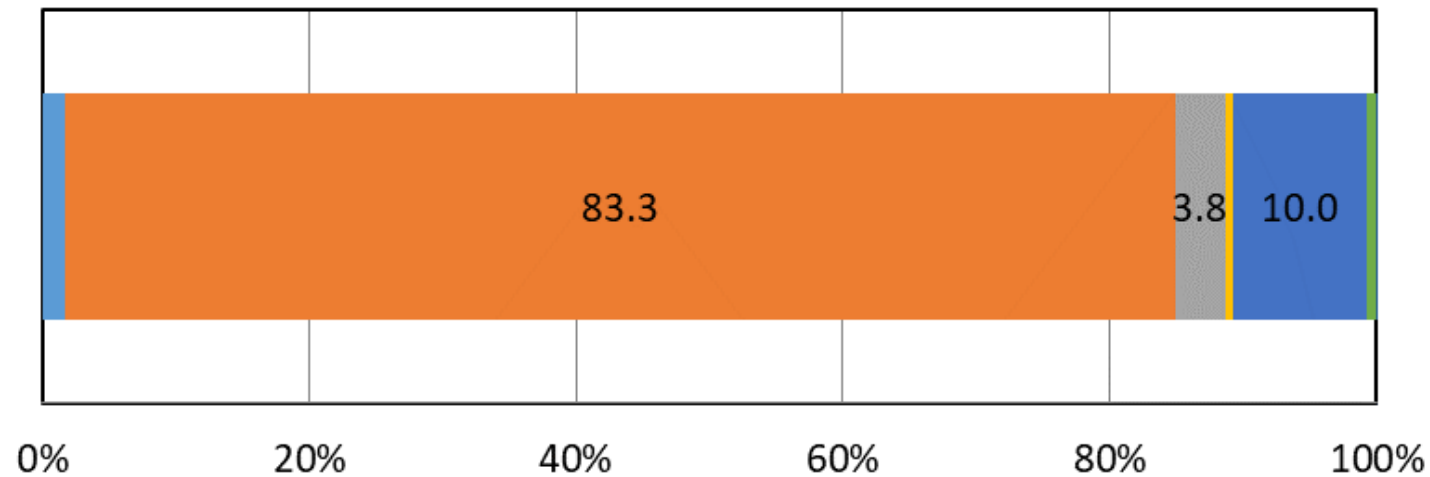


NIPT 受検／非受検 誰が決めたか

n=2221



2015年インターネット調査 NIPTの受検について



- 検査を受けた
- 検査を受けなかった
- 他の医学的検査から受ける必要はなかった
- 検査を受けたかわからない(自覚がない)
- 妊娠時に検査が実施されていなかった
- 覚えていない
- 答えたくない

n = 2221のうち
受検者37人

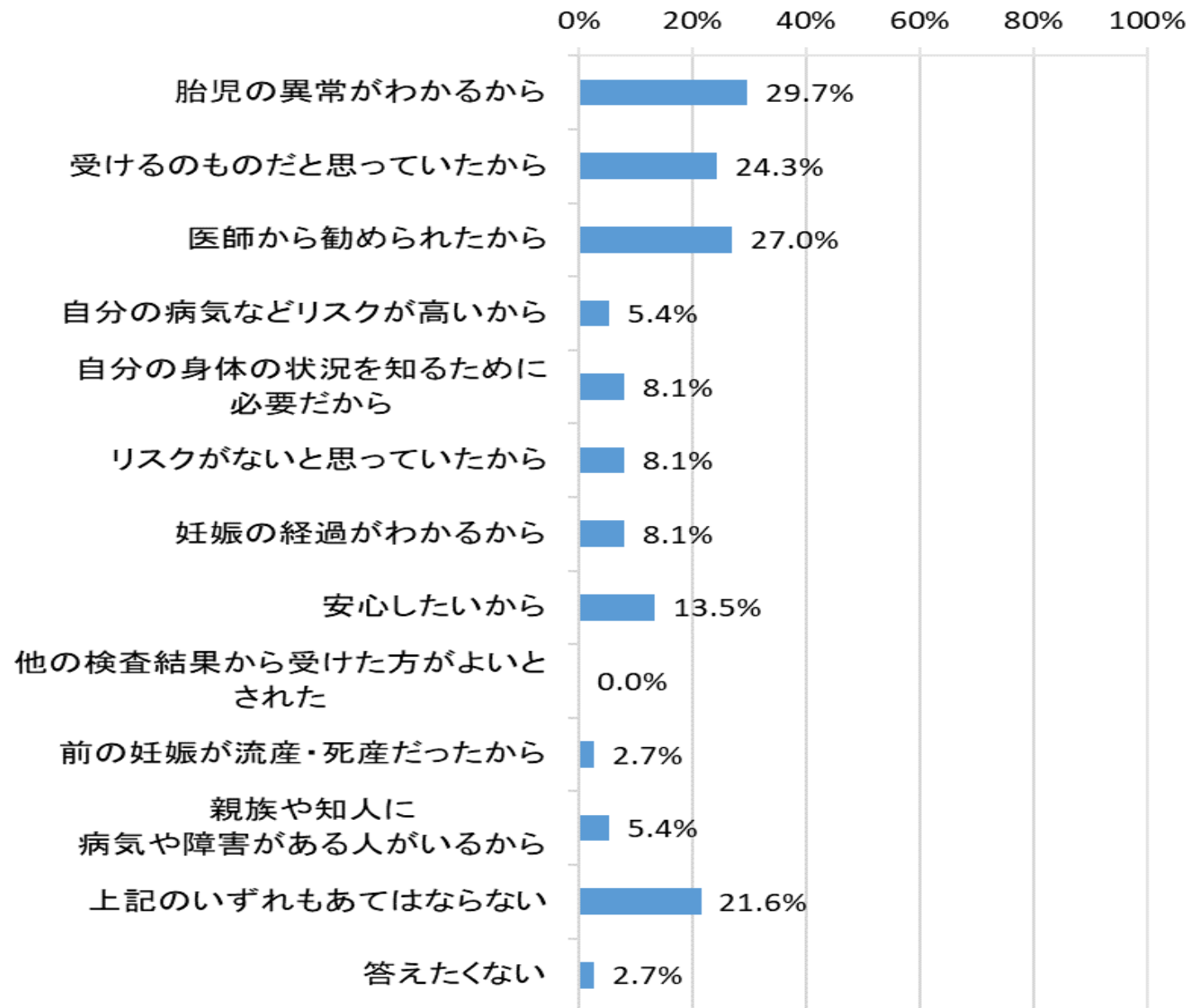
2-6-6 NIPT 検査を受けた理由

受けた理由としては、「胎児の異常がわかるから」は 11 (29.7%)、「受けるのものだと思っていたから」は 9 (24.3%)、「医師から勧められたから」は 10 (27.0%)、「自分の病気などリスクが高いから」は 2 (5.4%)、「自分の身体
の状況を知るために必要だから」は 3 (8.1%)、「リスクがない
と思っていたから」は 3 (8.1%)、「妊娠の経過がわかるか
ら」は 3 (8.1%)、「安心したいから」は 5 (13.5%)、「他の
検査結果から受けた方がよいとされた」は 0 (0.0%)、「前の妊
娠が流産・死産だったから」は 1 (2.7%)、「親族や知人に病気
や障害がある人がいるから」は 2 (5.4%)、「上記のいずれも
あてはまらない」は 8 (21.6%)、「答えたくない」は 1
(2.7%) だった。(n = 37)

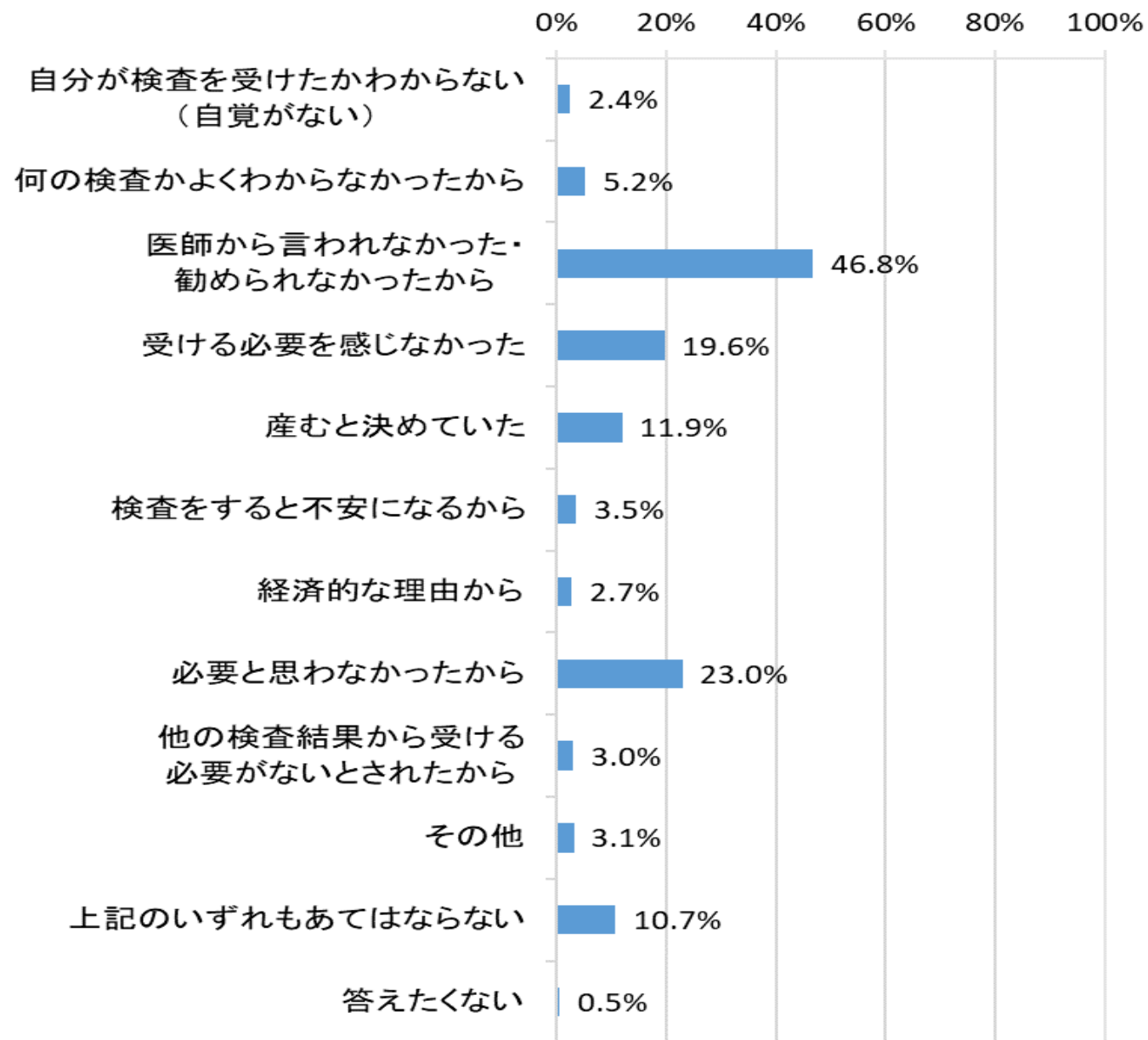
2-6-6 NIPT 検査を受けなかった理由

受けなかった理由としては、「自分が検査を受けたかわからない（自覚がない）」は 45（2.4%）、「何の検査かよくわからなかったから」は 97（5.2%）、「**医師から言われなかった・勧められなかったから**」は **865（46.8%）**、「受ける必要を感じなかった」は 362（19.6%）、「産むと決めていた」は 220（11.9%）、「検査をすると不安になるから」は 65（3.5%）、「**経済的な理由から**」は 50（2.7%）、「必要と思わなかったから」は 425（23.0%）、「他の検査結果から受ける必要がないとされたから」は 55（3.0%）、「その他」は 57（3.1%）、「上記のいずれもあてはまらない」は 198（10.7%）、「**答えたくない**」は 10（0.5%）だった。
(n = 1849)

NIPT受検理由 n=37



NIPT非受検理由 n=1849



NIPT WG として押さえておきたいまとめ

医師と妊婦の関係

医師が検査の要不要を決めると考える人が多い

情報提供する場合だけではなく、しない場合もその意味を推察される

医師の言葉をいかに受け止めるかはその人と取り巻く状況によって正反対

妊婦の不安

胎児が健康か、病気・障害がないかというだけではなく、出産によって生活がいかに変わるか、仕事は続けられるのかなども要因

出生前検査をする際に産まない選択をするか否かを意識している人もいるが、

「自分は大丈夫」と考えて検査を受ける人もいる。

検査を受けないという選択をする人は、検査結果のあと自分がいかに行動するかを考えたくないという理由がある

今後

情報提供者が遺伝カウンセラーになることによる妊婦との関係性の変化は不明

検査を受けるかどうかの意思決定要因（2003年アンケート調査）

検査の受検の決定要因に関するロジスティック回帰分析結果

説明変数()内は変数のレンジ	羊水検査			母体血清マーカー検査		
	B	Wald	Exp(B)	B	Wald	Exp(B)
妊娠時の年齢(17-42)	0.17	4.70 **	1.19	0.11	2.80 *	1.11
学歴(教育年数 9-18)	0.01	0.00	1.01	-0.19	1.90	0.83
信仰(1,0)	-0.23	0.04	0.79	0.47	0.24	1.60
医師からの情報(1,0)	2.75	11.35 ***	15.65	2.35	15.60 ***	10.47
医師以外からの情報(1,0)	0.27	0.20	1.31	-1.33	4.99 **	0.27
医療従事者の経験(1,0)	0.01	0.00	1.01	0.22	0.13	1.24
それまでの妊娠回数(0-5)	-0.28	0.98	0.76	-0.21	0.96	0.81
予定した(望んだ)妊娠か(1,0)	-1.26	3.48 *	0.28	-1.27	4.14 **	0.28
妊娠を知った時の心配(1,0)	0.94	1.77	2.57	-0.84	1.17	0.43
妊娠中の不安(1,0)	-0.32	0.23	0.72	-0.35	0.41	0.70
Constant	-8.94	6.04	0.00	-2.09	0.53	0.12
—2LogLikelihood	88.5873039			108.9297168		
Cox & Snell R-square	0.18682143			0.194739025		
Nagelkerke R-square	0.406680568			0.319004099		
Model Chi-square(df=10)	44.87658748 ***			32.488 ***		
n	276			196		

註 被説明変数は、検査を受けたが1、検査を受けなかったが0
縦1列が1つの回帰式を表し、点線上是回帰係数(B)、Wald、およびオッズ比(Exp(B))である。点線下はモデルの適合度および標本数(n)を表す
説明変数は、「はい」もしくは「ある」が1、「いいえ」もしくは「ない」が0
***1%水準で有意 **5%水準で有意 *10%水準で有意

保育園票のみ